



沖小だより

6月

令和8年6月 第6号
門真市立沖小学校
校長 吉川 茂樹

学校教育目標 「考動」「協創」「継続」～自立した子どもの育成～

今週から水泳が始まります！

先週、6年生と教職員でプール掃除を行いました。水しぶきを上げながら一生懸命デッキブラシをかける子どもたちのおかげで、プールはすっかりきれいになりました。

いよいよ**今週水曜日**から、水泳の授業がスタートします。**体調管理**や**持ち物の準備**など、ご家庭でのサポートをよろしくお願いします。



縦割り班活動がスタートしました

6月8日（月）、本校が大切にしている「**縦割り班活動**」が今年度も始まりました。1年生から6年生まで異なる学年の子どもたちが同じ班に集まり、一緒に活動する時間です。今回は「サイコロ自己紹介」「風船パスゲーム」「掃除場所の確認」の3つに取り組みました。

サイコロ自己紹介では、さいころを振って出た目のお題（好きな食べ物・好きな色・好きなどうぶつ…など）で自己紹介をします。何を話せばいいか決まっているから、話すのが苦手な子も参加しやすい。うまく話せなくても、みんなが拍手してくれる。その小さな安心感が、この活動の出発点です。

風船パスゲームは、グループ全員が風船に触れるように声をかけ合いながらパスをつなぐゲームです。「こっち!」「もう一回!」と自然に声が出て、何回続いたかを班で数えます。ルールはシンプルですが、「誰も置いてけぼりにしない」という感覚が、遊びの中にそっと組み込まれています。

なぜ「**異学年**」なのか。同じ学年の友達との関係は、子どもにとってかけがえのないものです。しかし、「**少し年上の人に優しくしてもらった経験**」や「**年下の子のために頑張った経験**」は、同学年の関係だけでは生まれにくいものです。

年上の子は、誰かのために動くことで「**自分は役に立てる**」という自信を育みます。年下の子は、近い存在の上級生から教わることで「**自分もあんなりたい**」というあこがれを育みます。この双方向の育ちが、縦割り班活動の一番の効果です。

また、クラスが違って顔見知りが増えていくことで、学校全体が「**安心できる場所**」になっていきます。休み時間に廊下で会ったとき、自然と声をかけ合える関係が、学校生活の土台をつくっていきます。子どもたちの健やかな成長のために引き続き、取り組んでいきます。

今週木曜日、オープンスクールです！

ぜひお子さまの頑張る姿をご覧くださいと思います。こちらについては、別途、テトルでお知らせします。

